

1. 園の教育目標

幼稚園教育は教育基本法にのっとり、学校教育法の示す所に基づき幼児を保育し適切な環境を与えて、生きる力の基礎を育成することを目的とする。

正 周囲におこる様々な問題を考えさせ、物事を正しく理解し、判断できる力を養う。

強 自分の事は自分でやる。やってみようとする意欲と成功感を持たせながら、自信に満ちた心と、健康な身体を養う。

明 仏教的な情操を礎地として、感謝と善意に満ちた心を培い、明るく伸びやかな情緒を養う。

和 お互いに美点を見出し、讃えあい和やかに、寛大な心を養う。

2. 具体的な目標や計画

- ・心身の健康教育
- ・個性を伸ばす教育
- ・家庭と一体となったきめ細やかな教育
- ・発達、年齢に応じた教育

以上の事を踏まえ子ども達が主体的に活動できるように援助していく

3. 評価項目の取り組み及び達成状況

評価項目	結果	理由
教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	A	定期的な会議などを通し職員間で現状を把握してきた。その上で、教育要領などの現状との違いを把握し問題点、改善点などを見つけ柔軟に対応してきた。
子どもの実態を的確につかみ具体的な手立てを講じる。	B	園児の記録をとる、職員間で気づいたことなどを日常的に伝え合うなど子どもの現状把握に努めた。その上で子どもの姿に応じた関わり、保育を実践した。
学期ごとに各クラスの運営の成果と課題を報告する。	A	子ども一人ひとりが自己発揮できる環境であったかの振り返り、クラス運営、保育者の関わりなどを振り返り書面や会議で報告した。園全体で共有する事で職員一人ひとりの気づきが深まり実践に繋がっている。
あそびを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	B	子どもがあそびを見つけられるように、環境設定に重点をおいた。子どもが見つけたあそびをさらに広げ発展していくような援助を引き続き行う。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	一人ひとりに寄り添いあそびを充実させ具体的な目標、計画の実現に向け、保育記録の取り方をより工夫し、現状と計画を比べ保育方法、計画の柔軟な対応に努めた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自己評価	職員自己評価については引き続き学期ごとに行い、保育者として求められていることを確認、自身の課題をみつけ保育の質の向上に努めていく。
安全管理	より具体的なケースを想定し、災害時に対応できるように、危機管理の徹底、安全教育及び訓練を実施していく。
子どもの姿、発達を捉えた環境づくり	幼児の発達を捉えたあそびの環境設定を行う。あそびを捉える、繋げる、広げる環境構成をしていく。
運営の成果と課題の報告	今後も教職員間で学期ごとに現状を振り返り、確認し、改善点、新たな課題に向かい取り組む。報告については HP で公表をしている。